

令和5年度第4回社会教育委員会議 日本民家園部会 議事録

- 1 開催日時 令和6年3月24日(日) 10:00~12:00
- 2 開催場所 日本民家園 旧原家住宅
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、長谷川委員、柴田委員、松本委員、今委員、原田委員
事務局 澁谷園長、東担当係長、藤川担当係長、葉山担当係長、真保職員

4 議題

- (1) 令和5年度事業評価について

- 5 傍聴者 1名

6 会議内容

- (1) 園長挨拶
(2) 会議成立の確認、資料確認
(3) 議事
(4) 報告事項(事務局より説明)
・川崎市立日本民家園運営基本方針について

7 議事内容

〈事業計画・評価シート 各項目の数値について〉

高橋委員：概ね良好だと思う。今の数値は2月末のため、3月のものが集計されると、ハードルの高い目標値まで近づく。特にインバウンドの方が商品を買っているため、努力が実ったと思う。非常に素晴らしい。

柴田委員：外国の方が伝統工芸館を利用されることが多いように感じるが、伝統工芸館の入場者数、1998名の内訳で外国の方はどうなっているのか。

東担当係長：手元では確認できないが、外国人の方は多いと感じる。

柴田委員：炉端の会は昨年5月から活動再開し、統計を取っている。2月まで活動のべ人数は2667名、公開棟は671棟。平均すると1日の活動人数は11.6名、2.9棟を焚いている。

松本委員：令和5年度は入場者数が伸びているが、コロナ禍の行動制限がある年度と比較した数値である。参考値としてコロナ禍前の数値も手元資料として抑えておいたほうがよい。過去の評価シートを見ればわかると思う。

園 長：コロナ前の数値も参考資料となるので、改めて確認したい。統計は残っているので分かるようにする。

高橋部会長：コロナ前よりもずいぶん伸びてきているような気がする。コロナの時もあまり落ち込まなかった。

園 長：落ち込まない部分もあった。

〈1 保存・研究・展示・普及活動〉

（1）文化財の保存・調査研究の推進

野尻委員：実績のところで、山下家、太田家の耐震工事報告書について、原稿作成を委託するのか。

葉山担当係長：原稿の作成と編集を委託している。設計監理が外注のため、そこに委託する。

野尻委員：委託先で本にするのか。

葉山担当係長：年度が分かれるが、そうなる。

菅野委員：目標に支障木の管理とあるが、今年度は特にやらなかったのか。

園 長：項目の設定の都合上こうなってしまったが、支障木の管理については、最後の8ページの危機管理体制のところに記載がある。実際、指定管理業務として支障木の管理を実施した。

菅野委員：2番の今後の課題として、「廃盤機器対応」とあるが、具体的に何がどうなって、どうしようとしているのか。

園 長：設備的なものは修理しようとしても廃盤になって修理できないものがあり、そういったものについては更新していくしか無い。その対応をしたいと考えている。

高橋部会長：具体的にはまだないのか。

園 長：いろんなものが出てきている。例えば、照明器具ひとつにしても元のものが使えないといった状況が出てきている。

葉山担当係長：今年度起きたことだが、監視カメラに関して、設置から10年程度経ち、設置当初の同じ部品が納品されない。インターネットで制御しているが、インターネットエクスプローラーからマイクロソフトエッジへ移行したため、似たものをいれると、従来のものと同じでは接続できないという問題が出てきて、エッジで動かすカメラとインターネットエクスプローラーで動かすカメラの2種類が出てきてしまった。結果的に操作にあまり影響でない形でできたので、事なきを得たが、今後もっと深刻な設備で不具合が起きた際に問題が起こるのではないかと考えている。このまま同じ状態でフル稼働させ続けるのは課題である。

菅野委員：出版物のインターネット公開は喜ばしいが、著作権処理は大丈夫なのか。

園 長：報告書について署名のあるものが1件あるが、許可を得て掲載している。

高橋部会長：データベースのホームページで公開されたのを見ようとしたが、アクセスがわか

りづらかった。

園 長：ボタンが端っこすぎるということか。

高橋部会長：そうですね。これからデジタル化といわれるが、アピールするのであればインターフェースも検討したほうがよい。

園 長：本来であれば、データベースの形で公開するのが望ましいが、予算を確保するため時間がかかる。それまでのつなぎとして、現在の形で公開した。あまり目立たないところに配置したのが、正直なところ。

大野委員：リファレンス等の評価項目はどこで評価すればいいか。リファレンス項目があった方がよい。大岡資料を30年近く整理しており、建築学会の委員会で話題になったが、大学関係の建築資料は研究室で継承されずに、個人的に継承されることが多くなっている。大岡先生の場合は民家園で収蔵し、目録化されている。これはレアケースである。今年の8月に、収蔵の状況も含めて見学させてほしいといった問い合わせがあった。昔にやったことが現在評価されることもある。そういったしつかりとした活動はあまり見えないが大事なことだと思う。うまく評価に生かせないものか。

園 長：項目としてはこの項目になると思うが、大岡資料については研究者の方から問い合わせがあって、特別利用申請を提出してもらっているので、そういった数字を出すことはできる。

大野委員：数だとそんなにないかもしれないが、重要なことをされている。目録を見て、見に来る人もいると思う。数だけじゃなく、こういう問い合わせがあったといった記録があると、ここはCとは言えないのでは？。評価が変わってくる。

高橋部会長：項目を分けてもいいように思う。よくあるパターンだと、特別利用申請の件数、貸出件数、取材が何件あったか、そういった数字が具体的にあるとよい。

園 長：運営基本方針ができあがったため、それに合わせて事業評価シートの見直しを検討している。見直すタイミングとしては、現在の中期目標が令和6年度までなので、令和7年度から運営基本方針に合わせた評価シートにしたい。そのタイミングでそういった活動をどうやったら評価に盛り込めるか検討したい。

大野委員：金沢市の元百万石文化園江戸村（現在、金沢市が金沢湯涌江戸村として移築再整備中）では、公開にあたり利活用の検討が行われていて、公開されている川崎市立日本民家園の事業評価をしっかりと参考に行っているという。事業評価自体も複数の類似施設において参考になっていることが想定される。そういう面も事業評価の意義として認め、問い合わせがあったら積極的に評価の対象にすべき。

松本委員：計画では山下家は「完成まで」となっており、実績のところは「今年度分完成」と記載されているが、「完成」ととらえてよいか。伊藤家の実績は「完成」となっているが、山下家の記載と違いは何か。

葉山担当係長：山下家については、事業の繰越があったことと迂回路の設定のために工事区域を

分ける必要があり、今年度分は完成したと記載した。来年度残り分をやらなければ、山下家工事としては終わりきらない。水道の漏水なども判明し、それを直さなければ舗装ができず、そういった事情から、今年度分が終わったと記載した。

松本委員：状況について説明を聞かないと、文面だけでは終わったのか終わっていないのか、判断できない。

葉山担当係長：「完了」にして「今年度分」を削除するなど、表記を工夫して補足したい。

高橋部会長：評価について、挙手をお願いします。

1 A1名 B8名 C0名、評価B

2 A0名 B9名 C0名、評価B

菅野委員：3の内部評価Cとした理由は、暮らしと家の調査ができなかったためか。

園長：そうです。去年も今年もできなかったのです。

野尻委員：その理由が何なのかということによるかと思うが。

園長：人手的な問題がありそこまでとり着かなかったのが、正直なところ。民家園としては重要な活動だと考えているので、できなかったと記録に残しておく意味でもCとした。

3 A0名 B8名 C1名、評価B

(2) 展示の充実

大野委員：ABCの付け方について、大学だと、標準があってそれ以上だと「10」のように評価しているが、この評価シートにはそれがないので、Aは付けづらい。評価シートでは、目標水準に基準があって、目標でもっと上までやりたいな、というのはプラスであって、最初から目いっぱいところに標準があって、それを超えるのはレベルの高い話になってしまうので、水準の設定を今一度、検討し直してほしい。

高橋部会長：私達の感覚のABCと、役所としてのABCの感覚が違うように思う。評価する前にABCの説明は改めてしたほうがいい。説明しないと、平均点くらいで終わってしまうように感じる。日々の努力について、正当な評価をしにくい印象がある。動画サービスについても、忙しくてできなかったとあるが、自分たちだけで工夫して実施しようとするところにそもそも無理があったのではないか。このような問題は努力だけでは難しい。博物館として、展示点検は行ってほしかった。炉端の会の方の意見を吸収して、協力してできたこともあると思う。

菅野委員：基本業務に支障が出るほど、イベントがかさみすぎてできなかったということであるなら、勇気のいることではあるが、その分の人手が回せるようなイベントのやり方を考えた方がいい。調査も人手が無くて、ということのため、今いる人員での割り振りを見直したほうがよい。

野尻委員：古民家解説について、具体的にどのように行っているのか。

園 長：月に2回行っている。1回は建築、1回はそれぞれの家の暮らしを中心に解説している。

野尻委員：たまたまそこにきている来園者が聞けるのか。

園 長：行事の工夫はしている。事前の申込みはない。炉端の会は炉端の会として園内ガイドを毎日行っている。

長谷川委員：今のくらのやみの企画展の子どもも解説に参加したが、クイズ形式があり、とても工夫されたものだったと思う。先ほど人手不足という話もあったが、このような会の回数が多くなれば良いと思った。

園 長：生田緑地は子どもも多いので、来年度以降も力を入れていきたい。

菅野委員：大人向けと子ども向けの比率を変えてもいいのかもしれない。

園 長：古民家巡りも親子連れが多い場合は話し方を変えるなどの工夫をしている。民家園としては親子連れが来ることはありがたいことのため、引き続き取り組んでいきたい。

1 A0名 B6名 C3名、評価B

高橋部会長：Bと評価したが、基本的な業務に注力することを考えてほしい。7年から評価シートを変更するという話だが、中期目標のR6までは変えられないということか。

園 長：これまでは中期目標を途中で変えるということはない。

2 A2名 B7名 C0名、評価B

(3) 教育普及活動の充実

大野委員：2番の学校連携について、実物で良い建物を見る機会をいただけるのはありがたい。3番のCの理由について、なにかあれば伺いたい。

園 長：本来であれば炉端の会と民技会も含めた協力者会議があるが、コロナ禍以降再開できていない。今年度はテーマとして、運営基本方針の意見をいただくのが大きな課題となっていたが、個別に意見聴取して済ませてしまったのが実情である。民技会についても、新人研修など連携を取り切れず実施できなかった。

柴田委員：市民活動団体について、炉端の会の歴史は30年ほどだが、事務局が存在しない。そのため、民家園のスタッフに負うことが大きい。コロナ禍後も、コロナ禍前の体制が望ましいが、事務所の体制が追いつかないと聞いている。民家園あつての炉端の会だと思う。体制を固めるのは難しいとは思いますが、無くしていく形で進めていくのはできる限り避けるよう努めてほしい。

園 長：民家園として、炉端の会をなくそうと考えているわけではない。家の博物館において、人の気配は重要だと考えている。その点で、炉端の方々が火を焚いて、暮らしの雰囲気を出しているのは大事なことだと考えている。

松本委員：出張ワークショップの実施と計画に書いてあるが、何件行う予定だったのか。

園 長：日航ホテルから夏祭りにあわせてきてくれというので、1件きていた。

- 松本委員：4番目の評価をAとした理由を知りたい。
- 園長：伝統工芸館のミニ展示の開催や、通販や申し込み体制の改善、伝統工芸館の参加者数と売り上げの増加など、そういった点も加味し、A評価とした。
- 原田委員：学校連携充実について、中学校の職場体験の受け入れ5校ありがとうございました。各中学校の校長にアナウンスをしているが、民家園から発信はしているのか。ギガ端末が入ったとあり、授業ができたことは喜ばしい。緑化フェアへの協力として、民家園はどのような協力は行っていくのか、文化財課との協力はどのようなになっているのか。
- 園長：学校連携事業の発信として、小学校へは体験学習事業のアナウンスをしている。中学校については職場体験の受け入れのアナウンスは行っておらず、申し込みがあれば随時受けているのが実情。ギガ端末の授業については、先方の学校から申し出があったため、受け入れた。こういった形で情報発信していくかについては、現状ではたくさん来ても受け入れることができないので、悩ましいところ。緑化フェアについては、伝統工芸館が藍染の大きな布を作ったり、景品を作ったりといったことを計画している。市制100周年記念としては、廻り舞台を利用した歌舞伎公演を企画している。民家園内にはソメイヨシノの桜が無いので、植えることを計画している。
- 今委員：学校連携の充実のギガ端末の活用について、児童向けと教員向け資料等の配信とあるが、先生向けの配信は何を計画していたか。
- 園長：民家園のホームページに資料は公開しているが、ギガ端末の活用はこれからの課題となっている。
- 今委員：若い先生方が多く、古いものに対して先輩の先生が教えたりするが、先生たち自身が学べる資料があるといい。
- 園長：ギガ端末について、研修への参加等は行っているが、十分に活用できていない状況。役所全体としてペーパーレス化が進んでいるので、これを利用してもっと展開できたらいいと考えている。
- 野尻委員：職場体験や博物館実習には職員が対応するが、大学建築系学部については誰が対応するのか。
- 園長：古民家の実測がほとんどとなるため、大学の先生が指導している。民家園側は実測にあたっての注意を行う程度である。
- 高橋部会長：実測にあたって職員が立ち会うのか。
- 園長：実測は丸一日行われるため、すべては立ち会わないが、最初は立ち会うようにしている。
- 高橋部会長：同じ学校もふくめての10校か。
- 園長：含めての数字であると思う。
- 高橋部会長：10校ということで、かなり活用できているため、学校連携の充実の部分では目

標以上のことができていると思う。なかなか大学で利用してもらうことはないの
で、民家園ならではの非常にいい取り組み。大岡資料なども含まれれば民家園なら
ではの利活用ができるのではないだろうか。

菅野委員：1のところで、実績をみると、計画にないものがかかり取り組まれているように
見えるが、内部評価がBというのは、どういった理由か。

園長：ほぼ予定通りできた自覚があったので、Bとした。

菅野委員：ガイドラインの作成など予定になかったもの等はどうなっているのか。

園長：外部から様々な申し込みがある。民家園としてどうしていくべきか、受け入れの
基準をある程度作っていかないと、博物館として受けるべきではないものまで、無
理強いさせられてしまうおそれがあるため、今年度運営基本方針の策定に合わせて
作成した。

1 A2 B7 C0、評価B

2 A4 B5 C0、評価B

3 A0 B3 C6、評価C

4 A9 B0 C0、評価A

〈2 運営・管理活動〉

(1) 博物館経営の強化

菅野委員：研修に行った先や内容はどのようなものか。

園長：文化庁や神奈川県博物館協会など様々な研修を行っているので、それぞれが行き
先を選んで、行っている。

菅野委員：博物館に関わる研修か。

園長：そうなる。

高橋部会長：研修に参加した方は、結果について共有しているのか。

園長：役に立つところなどを、回覧するようにしている。

高橋部会長：オンラインについては参加しているのか。

園長：遠方で行う会議もあったので、オンラインで参加した者もいる。

高橋部会長：Youtubeを用いた広報も自分たちで行っていくのか。

園長：そう考えている。また、川崎市役所で緑地の映像を撮ることがあるので、そうい
った映像を民家園のホームページにリンクを貼ることも考えている。

高橋部会長：他館だが、企画展をYoutubeのちょっとした動画としてあげている例があるので、
そういったことも将来的にできればいいと思う。

大野委員：ルールブックについて、大学で実測をする際に、この家しか対象ではないと規定
があるが、限定している理由はなにか。

園長：実測をするとお客さんが入りづらいというのがある。そのため、奥まったエリア

で実測をお願いしている。

大野委員：学習の効果として限定されてしまうと惜しいと感じる。例えば、三溪園の場合は、申請対象建築はほぼすべての歴史的建築で、申請時に他の利用がない限り見学や実測を受け入れてもらえる。

原田委員：Youtube について、全部自分たちで行うのは大変なことだと思う。川崎教育プランの中で文化財を大切にしようというものがある。生田緑地については、中学生が紹介している Youtube もある。市へ広報を申し込めれば、負担が減るのではないか。

園長：広報については、シティプロモーション推進室と連携を行っている。

柴田委員：炉端の活動をしている際に感じるが、外国の方が多い。スケジュールの都合か天候に左右されずに来園する。気になる点として、アメリカの旅行関係のメディアで紹介されたことがあったが、外国の方々がどこで民家園の情報を手に入れているのかが気になる。英語対応ができないのが悔やまれる。

園長：外国の方が、どこで民家園を知って来てくれているのかは、残念ながら把握できていない。外国人対応は民家園としての課題である。また、広報についてのノウハウの積み上げもない。シティプロモーション推進室など、専門のところと連携していきたい。外国人来園者数はかなり増えている。一方、コロナ禍前の中国からの団体が来ていない。これが来るようになると、さらに来園者数は伸びるため、伸びしろがあると思われる。

菅野委員：企画展の広報を充実させたいとあるが、博物館でチラシなどを作ることがあるが、民家園だよりがある程度でチラシは作っていないように感じる。インターネットで知る世代もあると思うが、紙媒体から展覧会を知る人もいる。そういったものも作成したほうがよい。美術館だと内覧会を開催し、関係者だけでなくインフルエンサーを呼んで発信してもらうことがある。色々なやり方があると思う。強化ということなので、どんなことを考えているのか。

園長：公式サイトでの企画展の広報をいいものにしていきたい。美術館だと独立して設けられていて、主な展示資料や展示構成などかなり詳しく掲載されている。民家園の場合は開催日時などわずかな情報しか出てないため、それを充実させていきたい。印刷物については、毎回の展示というわけにはいかないが、少し力をいれた展示の際は考えていく余地がある。

高橋部会長：報道発表はしているのか。

園長：行っている。民家園の場合は企画展示室そのものが小さく、あくまでも古民家が並ぶ常設展示がメインとして考えていて、展示室はいろいろな見方があるという入り口みたいなものと考えている。内覧会をやるには狭すぎるし、そこまではできないかと考えている。

柴田委員：昨日民家園内で着物を着て、結婚式の前撮りを行っていた。申請等はどうなって

いるのか。

園 長：民家園として申請等はないが、あくまでも個人範囲でお願いしている。

高橋部会長：コスプレは許可しているのか。

園 長：コスプレはお断りしている。個人的な記念撮影については断ることができない。

高橋部会長：入園の方の邪魔になったりするようなものは注意せざるを得ない。本来であればホームページ等に注意書きがあればいいのかもしれない。

長谷川委員：インスタグラムの運営についてもぜひ検討してほしい。

園 長：あまり手を広げるのは難しかったので、X、当時の twitter を始めた。岡本太郎美術館はインスタグラムを行っていた。交代で X を行うのが精一杯なため、今後の課題とする。

高橋部会長：シルク博物館も行おうとしたが、負担になっていたため、やめてしまった。広報を担当する職員がいないと、むやみに広げても潰れてしまうおそれがある。情報発信はいいことだが、事前のチェックなどは神経質にならざるを得ない。人員などの体制が整わないうちに安易に始めないほうがいいと思う。

松本委員：SNS の発信は民家園が行う方法もあるが、来園者に発信してもらう方法もある。外国の方が SNS で発信した情報を見て、外国人利用者数が増えている現状があると思う。民家園の中で SNS 発信を想定したビュースポットを設置すれば、効果的に広報が行えるように思う。検討してほしい。

園 長：来年度若い職員が入ってくる予定のため、行っていきたい。

1 A0 B9 C0、評価 B

2 A0 B9 C0、評価 B

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

大野委員：床上の飲食利用については何件か。

東担当係長：床上公開および土間にベンチがある家は飲食ができるようになっている。

松本委員：本館の展示室の空調機修理について、空調機が壊れたため、修理したということか。もしそうであれば単なる備品の故障であり、実績として記載する必要はない。

高橋部会長：突然壊れたのか。

園 長：そうなる。本館がオープンしてから30年近く経つため、老朽化が進行している。更新していくスケジュールもあるが、それより先に壊れてしまった。

高橋部会長：更新スケジュールがあればいいが、予算がかかるもののため、気を付けてほしい。

柴田委員：夏に壊れたのか。

東担当係長：夏ではなく秋冬に一部が壊れた。

高橋部会長：来園者に限らず、展示資料のためにも、重要なことだと思う。

柴田委員：色彩ガイドラインとはなにか。

園 長：運営基本方針を作るに当たり検討した。民家園は野外博物館のため、野外すべてが通常の博物館でいう展示室になる。普通の博物館の展示室であればサインやパネルの色彩が統一されている。民家園は野外博物館ということで、それらが統一されておらず、長い年月に渡って使ってきたためバラバラな部分がある。それらを統一するために、色などの指定をしたルール作りを行った。

柴田委員：工事についての色の統一は難しいのではないか。

園 長：工事現場でもブルーのシートを使っていたが、民家園では工事業者には、文化財シートという茶色っぽいシートを使って、景観に配慮するようお願いしている。全園で統一的なルールを作るため、このガイドラインを作成した。例えば、コーンも茶色いものを買うようにしている。

大野委員：故障の話は施設の管理運営の項目自体が無い。項目自体を作っていないのでは。

1 A0 B9 C0、評価B

2 A0 B9 C0、評価B

8 報告事項（事務局より）

- ・川崎市立日本民家園運営基本方針について

3月中に教育委員会への報告を完了し、完了後は民家園の公式サイトにPDFで公開予定

9 今後の予定他（事務局より）

- ・今回の議事録の確認と事業評価の公表スケジュールについて確認
- ・退任委員の挨拶（松本委員）
- ・異動職員の挨拶（澁谷園長、東担当係長）

<閉会>